

女學生と小説

澤柳局長談話の一節

今日の女學生をして健全なる教育を受けしめんには、卑猥なる小説を好讀する風を禁止せざるべからず、歐米諸國に於ては有名な小説の筋書位は之を知らざれば恥辱と爲すが如き風あり、我國と雖も高尚なる小説ならば之を愛讀するも不可なしと雖も、彼の卑猥なる小説を喜ぶが如きは甚だ不可なり、聞く所に依れば女學生の文章が古の文体より一變して現時の文体に接近し來る傾向ある中に、其文章及び言語の間に卑猥なる小説の言辭を用ふる所少なからず、此等は尙も深く注意せざるべからず、要するに一方に卑猥なる小説を製作せざる様動むべきも、亦社會の制裁を高め學生をして卑猥なる小説を手にすることを恥辱と爲すの風を養成せざるべからず、此等は獨り女學生のみならず、男學生も又同様なりとす。

海水浴につきての注意

海に山に暑さを避くる、今日此頃、海水浴に付きての注意も時節柄、必要と思ひつれば、左に掲ぐ
 ▲海水浴場の撰擇 療病と保養とに論なく、海水の浴を採らんと欲する者は、先づ其浴場を撰擇せ

ざる可らず、浴場の撰擇とは、天然の風光、人工の設備、氣候の現象等を檢して、先づ之が適否を案じ、扱て又海邊と海底の土砂が清潔なりや否や、交流は容易なりや否やを致へ、且遠淺の所を擇ぶことなり、

▲海水浴者の心得(一)海水浴の時期は毎年七月より九月迄の三ヶ月間とす(二)持續日數は体力の強弱、年齢の幼長により多少の加減あれども、平均三週乃至五週間とすべし(三)度數は虚弱者、病者は最初二日乃至三日に一回之を行ひ漸次毎日一回に改むべく、其健者と雖も一日二回を超ゆるは宜しからず(四)時間は游泳を知らざる者及び虚弱者と病者等は三分乃至五分にして健康者及び游泳者と雖も卅分以上に亘るは有害なり(五)浴時は病者及び虚弱者は氣温の餘り下降せざる午後五時前後、

健康者は日出後一二時間を經たる午前の七八時頃とす(六)浴前先把布片を海水に浸して全身を摩擦し事終りて後徐に浴を採るべし脱衣後直ちに水中に入らば皮膚の表面著しく收縮して血液内部に集注し不慮の禍を來たすことあり(七)浴中虚弱者及び病者は決して頭部を海水に浸す可らず且つ數回海面に向ひて深呼吸をなし肺臓の強健を助くることを心掛くべし(八)游泳を知らざる者は必らず水中にて手足の運動をなすに努めよ(九)出浴前二三回海水の含嗽をなすべし之れ口腔粘膜を強健にするの効あり(十)浴後には乾燥せる布片もて強く身体を全部を摩擦し充分に水分を拭去りて後着衣すべきなり(十一)着衣後は必らず十五分間海邊を逍遙して適宜の運動をなすべし(十二)食後直ちに浴を採る可らず是れ時に痙攣を誘起し又消化を妨ぐ

るものなればなり(十三)雨天及風波激しき時には決して浴す可らず非常に健康を害するをあり
(東京日々)

結婚に関する新説

獨逸の精神病學泰斗博士マイエル氏は新に説をなして曰へらく、結婚は男性にとりてこそ有利なれ、女性には生理學上之と反對の結果を生ずべし、何となれば男性の精神病者に獨身の人多けれど、女性の獨身者には殆んどこの精神病に罹れるものあるを見ず、此の一事を以てしても、女子に結婚は不利なるを證すべく、殊にヒステリーの患者は概ね其早婚に原因を有すれば大に注意せざる可らず云々と果して眞なりや否やを知らず。

幼兒衛生につきて二つ三つ

第一。熱い湯に入れることは悪いです。また長湯をさすことも禁物です、なぜかといふと、かゝる事は、心臓の働きを早めるものですから、その反動に、すつかり疲勞を感じさせますので、要るところ、心臓を弱めて血の循環を悪くします。